

若年者ものづくり競技大会への参加学生に対する大学校からの支援

福田泰久*

中央職業能力開発協会主催の若年者ものづくり競技大会は、平成28年度8月に第11回を迎えた。近畿職業能力開発大学校(以下大学校)では、第3回から連続で本大会に学生が参加しており、大学校の支援体制として指導員は勿論のこと、管理職及び学務課職員(以下担当者)も支援する体制を取っている。平成28年度に当校から大阪府代表として出場した学生は電子回路組立て職種にて1名、建築大工職種にて1名の計2名であった。本稿では、本大会への参加学生に対する大学校からの支援に対して、担当者としての立場から記録を残す。

Keywords : 若年者ものづくり競技大会, 電子回路組立て, 建築大工, 大学校の支援体制.

1. はじめに

若年者ものづくり大会[1]は、技能を習得中の20歳以下の若者の技能レベルを競う日本の競技会であり、中央職業能力開発協会が開催する。そこで、大学校では、学生の指導・応援・記録のために、建築大工職種には住居環境科西山先生、学務課の福田(筆者)を沖縄

県沖縄市へ、電子回路組立て職種には庄林先生、西山先生、牧野校長を栃木県宇都宮市へ派遣した。

大学校の支援体制は、図1のようなスケジュールに基づき行われている。

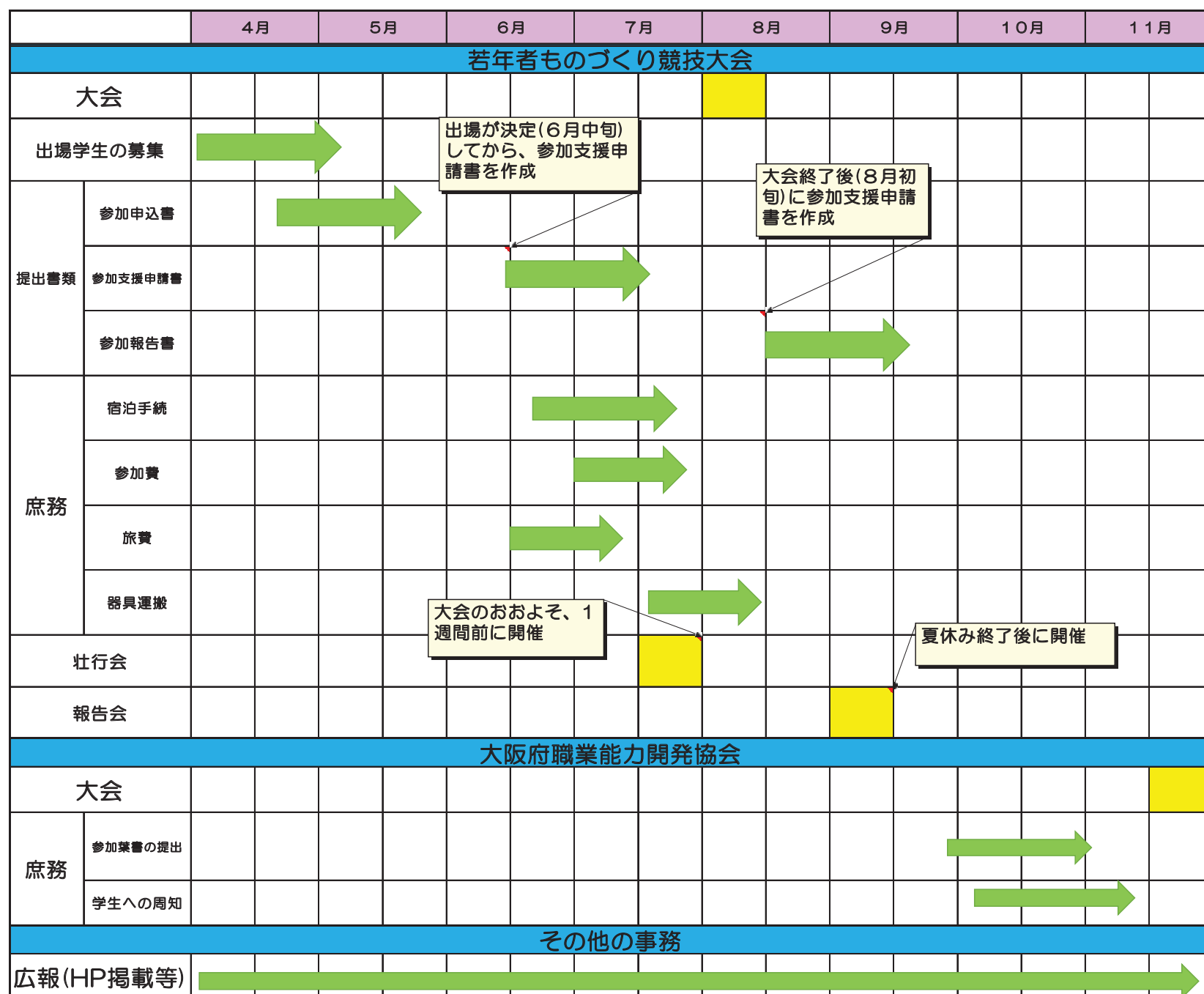


図1 年間スケジュール

* 学務課

2. 参加申込みから参加者の確定まで

大会の案内は各都道府県職業能力開発協会(以下協会)から、案内が届く。案内が届いた際には、専門課程の各科担任指導員に通知を行い、募集をかける。募集をかける時期は、例年5月のGWのことであった。

希望学生については、担当指導員を通して参加申込書を作成してもらい、担当者から協会へ提出する。

平成28年度は、電子情報技術科で1名及び住居環境科で2名の計3名の応募があった。職業能力開発協会への応募は例年5月末が締め切りで、出場者が確定するのは6月末である。当校の平成28年度について言えば、住居環境科の学生2名の内、1名は出場権を得ることができなかった。

3. 参加者の確定後

2名の学生が大会に大阪府代表として参加出来ることが確定したという通知が来てからは、大会に参加することへの原議を起案する。

併せて、参加支援申請書の提出や宿泊所の予約、航空券の手配、使用器具の運搬手続き事務、参加費の支払い事務等を行う。大会が例年7月末から8月初旬にかけて開催されることから、夏休みと重なってしまうために宿泊については、早めの準備が必要である。

また、大会が開催されるおおよそ1週間前には学生の激励を目的に壮行会を開催している。壮行会は、学生の指導を担当している指導員及び当校の管理職、担当者(28年度は筆者)にて開催する。

壮行会の内容は、大会の開催日の昼休みに昼食と飲み物を用意し、学生に大会への抱負を語って頂くというものである(図2)。壮行会では、校長より「大阪府代表として出場することに誇りを持って欲しい」旨の激励を頂いている。



図2 壮行会の様子

4. 大会当日

大学校では、学生の指導・支援・記録のために、指導員及び校長、担当者も随行する体制を採っている。

具体的には、指導員は学生への技術的な最終アドバイス等を行い、校長及び担当者は学生への激励と大会の様子を写真撮影する。

特に、担当者が行う写真撮影は、大会後に大学校のホームページ上で行う広報用として活用するので、100枚以上の写真を残すことに留意している(図3)。



図3 建築大工職種の競技会場の様子

5. 大会終了後

大会終了後は、使用した器具の受取り・参加報告書の提出を行う。大会終了後の時期は、学生及び職員共に夏休みの時期に重なる。そのため、書類の提出については、協会と調整する必要がある。

平成28年度の結果は、電子情報技術科の学生は銀賞を受賞することができたが、住居環境科の学生は賞を受賞することができなかった。

また、夏休みが終了した後のおおよそ1週間後には学生の労いを目的に報告会を開催している。報告会についても、壮行会と同じメンバーで開催する。

報告会の内容は、学生を労うとともに、学生に大会の振り返りと今後の抱負を語って頂いた。併せて、指導を担当した指導員にも練習の様子や大会への振り返りについてコメントを頂いた(図4)。



図4 報告会の様子

6. 大阪府職業能力開発促進大会

大阪府では、優秀な技能者や職業能力開発事業等で功績のあった方を称えることを目的に職業能力開発促進大会を開催している。若年者ものづくり競技大会においても敢闘賞以上の賞を受賞した方は表彰され、当校の電子情報技術科の学生は表彰されることとなった。

大会は、表彰を受ける学生及び来賓として参加される校長の他に事務局として学務課長及び担当者で参加することとなっている。事務局は大阪府との連絡調整、学生への通知や大会の記録を担当している。

平成28年度は、11月21日(月)に大阪中央公会堂にて開催され、前半は職業能力開発に係る講演会、後半は表彰という構成であった(図5)。



図5 大阪府職業能力開発大会の様子

7. 総合制作実習課題にて

本大会にて銀賞を取った学生は、総合制作実習課題にこの経験を活かすことにした[2].

自身で会得した技術やノウハウを後輩に継承することで、自身の技能の向上も考えているとのことである。

8. おわりに

若年者ものづくり競技大会は、出場する学生及びその指導を担当する指導員共に相応の負担がある。そのため、校をあげて支援体制を構築する必要があると考えている。

2016年度以降においても、この体制を更に続けていき、出場する学生の力を全て出し切れるような体制にしたい。

9. 謝辞

本業務において、協力して頂いた学校職員の皆様に深く感謝いたします。

文献

- [1] 若年者ものづくり競技大会 公式サイト：
http://www.javada.or.jp/jyakunen20/saishin_taikai.html
- [2] 辰ノ嘉郎，庄林雅了，東正登：若年者ものづくり競技大会への挑戦と後輩への継承2016,平成28年度総合制作実習・開発課題実習報告書,pp.42-43,2016

(2017年06月16日提出)